

地域鉄道の再生・活性化等研究会 報告書 要約(案)

本研究会は、一年間にわたって、地域鉄道について考えてきた。

存続をかけた実践的な取組みを勉強し、有識者、地域鉄道事業者、自治体、国が各々の情報やリソースを持ち寄って、再生と活性化のためにどんな手法があるのかを検討してきた。

本報告書は、その方策について、これまでに得られた経験と研究会での議論をもとに整理したものである。今後、方策の妥当性について実証実験的なモデル事業を実施し、そこで得られた成果やノウハウを他の地域にも展開していく。

(本研究会の成果)

本研究会は、経営状況の悪化や廃線に追い込まれる地域鉄道がある中で、まず、地域鉄道の社会的意義を明確にし、その意義を実現する方向で再生・活性化策が練られるべきであると考えた。

○地域鉄道の社会的意義

第一義的には地域交通サービスの提供である。この本質的な意義に加えて、本研究会は、地域鉄道が地域活性化に資する可能性を有することを提言する。

地域の人々の足を守る。この地域交通の使命を、地域鉄道も果たしている。しかし、この使命を果たすだけでは事業存続が難しい事業者も多いのが実情である。

地域活性化に資する方法として、地域鉄道を観光資源として活用し、まちの魅力向上に貢献する可能性が注目され、近年いくつかの成功事例が出てきている。

この2つの意義のいずれに重点を置くかは、地域鉄道事業者が置かれている経営環境や事業者の組織特性によって異なる。いずれかの意義に特化できる鉄道事業者もあるが、両方の意義を併せ持つことによって地域の理解や応援を得ていき経営改善を図っていく道もある。

○地域交通サービスとしての再生・活性化

地域鉄道の多くが利用人数を減少させており、地元住民にとって地域鉄道が非日常的なものとなってしまっている。地元の鉄道に無関心な住民が増えていると言ってよい状況下において本業を維持すること自体が難しい経営課題である。

(地域再生における位置付け)

この経営課題は、地域交通サービスの範疇だけで対応しきれるものではなく、地域再生の一環として総合的な都市計画の中での解決が必要である。高校や病院等の公的施設が沿線に整備されていること、あるいは、駅前に業務や住居の集積を高めて既存の需要をまとめるとともに新たな需要を創造していくことなどは、地域再生の中に地域交

通の再生、ひいては地域鉄道の再生が組み込まれて初めて可能となる。

(経営改善への努力)

地域鉄道事業者も一層の経営努力を重ねていく必要がある。東北鉄道協会のように安全の維持のために不可欠な研修を集合研修として提供し、研修の質の向上と研修費用の削減を両立させている事例もある。

(地域の合意形成)

何より重要なことは、地域住民から支持されなければ、地域鉄道は再生しないことである。徹底した住民目線に立ち、顧客のニーズを起点として、地域交通サービスを改善していくとき、地域鉄道の社会的意義が多くの住民に実感される。住民の多くが高齢化し通院が必要となったことから、自宅から医療機関までの移動のサポートを、タクシー等の他の交通機関とも連携してシームレスに提供し、地域社会に地域鉄道の価値を再認識させた事例もある。

○観光振興を通じた再生・活性化

地域鉄道自体が観光資源となる場合と、他の資源との組み合わせで新しい観光資源となる場合の2つの方法が考えられる。

(地域鉄道が観光資源に)

前者については、トロッコ列車等の観光列車への取組みに加えて、近年では、和歌山電鐵等のようにデザイン制作された車両自体が集客力を有している例がみられる。いすみ鉄道はムーミン列車としてのイメージを打ち出し、また、根強いファンを持つ国鉄形気動車を導入し、鉄道に乗ること自体を目的とした観光客を集客している。

(他の資源との組み合わせによる価値創造)

これまで別々であった資源が結びついて新しい価値を創造するという革新的な方法に挑戦している例も見られる。沿線のウォーキングイベントをはじめ、地域特産物を味わいにいく列車の旅など、地域の魅力を伝えるために地域自らが企画販売する着地型旅行商品との連携が成功のポイントであろう。さらには、観光振興に取り組む地域鉄道同士が連携し、お互いの魅力を補完しあったり、送客をしあったりする例もみられる。

(地域鉄道に求められるスタンス)

いずれの場合においても、地域鉄道が窓口となって観光客を地域に案内するというスタンスに立つことが重要である。地域鉄道が運んだ観光客が落とす消費が、地元商店街や地元産業の事業者に広く行き渡るとき、地元の産業界は、ともに地域経済を支える一員としての地域鉄道を支持するようになる。観光商品を企画する段階から地域の事業者を巻き込むことや、車内で沿線地域の観光魅力の情報発信を行うなどの工夫も必要である。

また、観光イベントを実施する際には、観光客だけでなく、地元住民が楽しめるよう工夫することも重要である。とくに、地元の子ども達が喜ぶイベントは、家族ぐるみでの参加

になり、地域鉄道を理解し愛着を持ってもらうために効果的である。

地域鉄道の再生・活性化の道はある。その道は、鉄道事業者がひとりで見つけ歩むのではなく、社会的意義を持ち、その役割を果たす責任ある主体として、地域住民、観光客、地元産業界、自治体等の多くの応援団とともに考え歩む道である。

本研究会は、地域鉄道事業者および自治体の皆さんに、上記を参考にして、あらためて、地域鉄道の社会的意義とその経営改善について考えてみて欲しいと願っている。本報告書が、その一助となれば幸甚である。